

鏡面の代わりにTVモニターを設置 自宅の居間にいるような環境を演出

CREATEUR Uchino 表参道

東京都渋谷区神宮前



1989年、現在の地にCREATEUR Uchino(クレアツール・ウチノ)をオープンして以来、“ヘア・エステ”をいち早く提唱。髪の健康に徹底してこだわった営業を展開してきたオーナーの内野邦彦さんが、2002年9月、ルイ・ヴィトンのオープンと同時に、同じビルの地下1階にリニューアルオープンしたのが、今回の表参道店。

営業的には、カウンセリングと専用器具を使ったヘアチェックで、お客様の

要望と髪質を的確に把握し、個別事情に応じた施術を行うのが特徴。そのため、比較的客户の滞在時間が長くなることから、居心地の良い環境づくりを最優先した。

スペースは、カットスペースとパーマ・カラースペースを分け、パーマ・カラースペースには鏡面を置かず、代わりにTVモニターを設置した。現在モニターでは、CS放送の映画やドキュメンタリーを流している。「お客様が、ふと、美容

室にいるのを忘れるような空間を意図した」(内野さん)という通り、フットレストの付いた椅子に足をのせてくつろいでもらえるようにした。

照明も、パーマ・カラースペースは暖色系照明の照度を落とし気味にし、くつろぎの空間を演出した。

また、地下の店舗ということもあり、できるだけ臭気をおさえるようマイナスイオンを発生する大型の換気装置を設置し、環境面での改善を図った。



シャンプースペース：リアタイプのシャンプー台を配置し体への負担をやわらげると同時に、ガラスによって仕切られたカットスペースからの間接的でやわらかな光を使うことで、よりくつろげる空間をつかった。シャンプー台はイタリア製。



カットスペース：ステンレスアルミニウムとガラスの組合せによる対面式の独立型鏡面。椅子には可動式のフットレストが付いており、希望によってフットレストを上げることが出来る。椅子もシャンプー台と同様イタリア製。





パーマ&カラーリングスペース：美容室にいることを意識させないよう、あえて鏡面をはずし、その代わりTVモニターを設置した。モニターでは、現在CS放送による映画やドキュメンタリーを流しているが、近い将来、DVDソフトのライブラリーをつくり、自由に観覧できるようにしたいという。



ウエイティング&カウンセリングスペース：最小限の待ち時間にしろ、お客様にかに快適に過ごしていただくかをテーマとした。大きな曲面のカウンターに向かってすわることで、お客様自身が周りから干渉されないようにした。また、カウンターの色と形には、ちょっとした遊び心を加えた。



ヘアチェックスペース：マイクロスコープや髪の強度をテストする機械などを使い、個々のお客様の髪質や状態を詳細に把握し、よりの確な施術ができるようにした。

salon data

経営者／内野邦彦

所在地／東京都渋谷区神宮前5-7-5 ルイ・ヴィトン表参道ビルB1F

営業面積／214.5㎡(65坪)

従業員数／20名(他レセプションに常時2名)

営業時間／11:00～20:00

定休日／不定休

技術料金／カット6,000円～(S、B) パーマ12,000～18,000円(カット別) カラー12,000～2,0000円(カット別)

鏡面／9面(他にTVディスプレイ設置席11席)

シャンプー台／8台

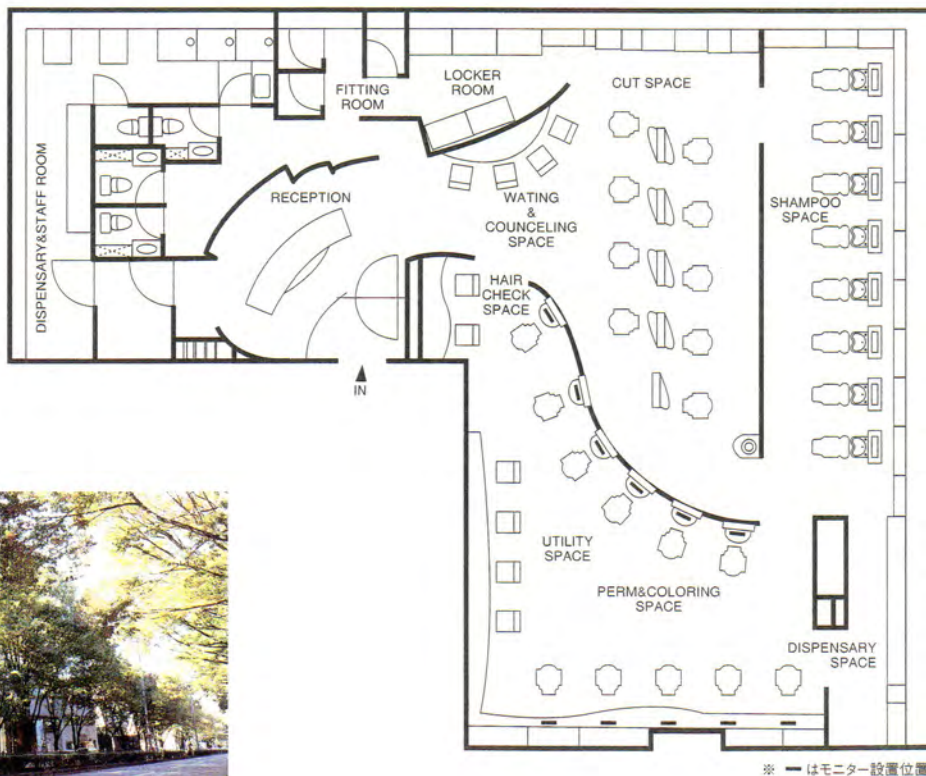
照明／「静」と「動」をテーマに、エントランスやカットスペースは白色光、パーマ・カラーやシャンプーなどくつろぎ感を与えたいスペースは、暖色系の照明とトーンダウンの組合せとした。各スペースにはガラスの仕切りを設置し、お互いのスペースの照明による干渉効果を計算に入れ、メリハリをつけた。

色彩／白色をベースにしているが、透明感の強い白を使わず、薄いベージュを主な色彩として使い、照明の演出効果により、金属や化粧板、塗装など使用している素材の多面性を引き出せるようにした。

設計・施工／株式会社シュウセイ 肥後貴嗣



レセプション：エレベーターへの導入から地下1階のエントランスまで、閉じられた空間から開放された瞬間、スタッフの笑顔でお客様をお迎えしたいという気持ちから、エントランスから視野に入る部分すべてをレセプションカウンターとした。



サロンの立地は、原宿・表参道沿いのルイ・ヴィトンビル地下1階。ビルに向かって右手の方に入り口のドアがある。看板類は一切出していない。